

- 12:1 そこでヨブが答えて言った。
12:2 確かにあなたがたは人だ。
あなたがたが死ぬと、知恵も共に死ぬ。
12:3 私にも、あなたがたと同様に、悟りがある。
私はあなたがたに劣らない。
だれかこれくらいのことを知らない者があろうか。
12:4 私は、神を呼び、
神が答えてくださった者であるのに、
私は自分の友の物笑いとなっている。
潔白で正しい者が物笑いとなっている。
12:5 安らかだと思っている者は
衰えている者をさげすみ、
足のよろめく者を押し倒す。
12:6 荒らす者の天幕は栄え、
神を怒らせる者は安らかである。
神がご自分の手でそうさせる者は。

12:7 しかし、獣に尋ねてみよ。
それがあなたに教えるだろう。
空の鳥に尋ねてみよ。
それがあなたに告げるだろう。
12:8 あるいは地に話しかけよ。
それがあなたに教えるだろう。
海の魚もあなたに語るだろう。
12:9 これらすべてのもののうち、
主の御手がこれをなさったことを、
知らないものがあろうか。
12:10 すべての生き物のいのちと、
すべての人間の息とは、その御手のうち
にある。
12:11 口が食物の味を知るように、
耳はことばを聞き分けないだろうか。

12:12 老いた者に知恵があり、
年のたけた者に英知があるのか。

「これくらいのことを知らない者があろうか」と、ヨブは主張しています。神に関する知識、御心の真理は共通に分かっているのです。ただ、友人たちはそれを他の人（ヨブ）に適用し、非難します。そしてヨブはそれは不当であると自己防衛しています。

非難のためにみことばを用いることは、大きな傷となります。みことばは神の御心とともに用いるものであって、人を慰め励まして建てあげるためです。

ヨブは必死に自然界が創造主を証しすることに解決を見出そうとします。これが後に自分の悟り（神との関係回復）になって行きます。もがくことは重労働ですが、主の前に祈りつつ、主に心をむけてのものがきであるなら、決して無駄になることはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

